



私も京都外大図書館を応援します(2) 「外大は自分の考えや 夢を持っている人の集団」

きしや かおり
岸谷 香さん



今年の春まで本誌『GAIDAI BIBLIOTHECA』と展示会の目録の印刷を担当していただいた。会社の都合でこの仕事を離れることになった。「3年前に始めて京都外大の仕事を担当させていただくことが決まったとき、語学には特に関心が無かったのですが、外国旅行をよくすることから違和感はありませんでした。この大学のイメージは、自分の考えや夢を持っている人の集団だと気づくようになりました」と振り返る。

本来、社内での事務的な仕事が本務だったが、営業畑に入り初めて手がけた仕事の本誌『GAIDAI BIBLIOTHECA』。校正のやり取りから印刷、納品、さらに発行後のデジタル化までを担当し、「すごい、これぞ図書館という感じ。いろいろ、印刷の勉強ができました」。

「最も印象に残った仕事は3年の間に経験した2回の展示会の目録作成。『ペリーがやって来た！黒船来航と日本』と『ハーンとモラエス』、どちらの展示目録も貴重書の迫力を感じて、校正のやりとりが大変でした」。特に、目録に掲載する稀覯資料の撮影では、貴重書室の重厚さと厳重な鍵の開け閉めを見て、たいへん緊張したという。

また、展示目録作成の仕事でハーンとモラエスの両文豪が日本女性の真髄を知ろうとして訪れていた末慶寺へ写真撮影に行き、明治時代の天津事件勃発の際に一命を棄てて国を救おうとした畠山勇子の遺品と対面。「同じ女性でも、残された遺品にはとても触られませんでした。が、勇子の墓には心から手を合わせてきました」と、仕事を通じて歴史の一コマに触れた思い出を語る。

趣味でアメリカン・フットボールの社会人リーグに所属するチームのマネージャーを務め、毎週土曜日と日曜日には京都から練習の場、尼崎まで出向くという。チームが強力なXリーグ1部にいることから、チーム内での「めざせ日本一！」の合言葉を聞き慣れており、外大図書館の事務室でよく耳にする「日本一の図書館活動」とは、「私が関係する二ヶ所で偶然この言葉が使われ、両者の目指している姿勢が一致しています」と明るく話す。

「次に開かれる展示会には外大へまた来たいです。ご招待状をお送りください」。仕事を終える挨拶を済ませ、笑顔で本学の図書館を離れた。

.....

印刷会社社員。趣味はアメリカン・フットボールのマネージャーのほか、華道と茶道。

(文・奥 正敬)